

専門基礎教育科目・専門教育科目の授業概要

【専門基礎教育科目】

科目区分	授業科目名	授業の内容
専門基礎分野 人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進	解剖生理学Ⅰ	健康な人体の構造、人体を構成する臓器の位置・形態を一連の機能系統別に学習し、健康状態を系統的に把握するために必要な解剖学的知識を習得し、看護に活用できる基盤を構築する。また、人体の各組織・器官の正常な機能と仕組みについて学習し、病態の理解に必要な基礎的知識を習得する。この科目では、特に、解剖生理学を学ぶための基礎的知識をはじめとして、呼吸・循環器系、消化器系、腎泌尿器系などの解剖と植物生理機能を中心に学ぶ。臨床現場での実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。疾患に基づく症候の出現の仕方やバイタルの変化などを含めて病態生理学と連動させた知識を構築する。
	解剖生理学Ⅱ	健康な人体の構造、人体を構成する臓器の位置・形態を一連の機能系統別に学習し、健康状態を系統的に把握するために必要な解剖学的知識を習得し、看護に活用できる基盤を構築する。また、人体の各組織・器官の正常な機能と仕組みについて学習し、病態の理解に必要な基礎的知識を習得する。解剖生理学Ⅰでの学修をふまえて、この科目では、生殖・発生に関連した解剖・生理の他、動物生理機能を中心に学ぶ。臨床現場での実務経験のある教員が担当し、理論と実践の部分から理解を深める。疾患に基づく症候の出現の仕方やバイタルの変化などを含めて病態生理学と連動させた知識を構築する。
	病態生理学(含病理学)	人体の正常な構造と機能がどのような要因によって異常をきたし、調整機能の破綻が生じるかを理解し、病態の成り立ちを学ぶ。生体を構成する様々な器官・組織・細胞・分子レベルから見た病態の発生機序を学修する。
	栄養・生化学	生命活動における生化学的機能と仕組みを学習し、病態の理解に必要な生化学的知識、生体を構成する物質とその代謝、遺伝情報とその発現などについて学ぶ。また、栄養的要因が関与する疾病とその食事療法の基本的な内容を理解する。病院における栄養サポートチーム(NST)による栄養管理などを学ぶ臨床栄養学への橋渡しとなる基礎的知識について学ぶ。
	精神保健	精神保健学は精神的な健康の保持・増進を取り扱う学問として発展してきている。心の健康を考える上で、現代社会における様々なメンタルヘルス上の問題について理解を深め、私たちの周囲にあるストレスとのかかわり方について協働学習により学ぶ。これにより、ストレスの多い社会においてどのように心の健康を保ってゆくか、さらに、メンタルヘルス上に課題をもつ人々がその課題を抱えながらもwell beingに生きてゆくということはどういうことなのかを考える。
	病態治療学Ⅰ (内科系疾患)	臨床において、比較的に遭遇しやすい内科系疾患について、病態のメカニズム、臨床症状、予後・合併症、治療・検査等について系統的に学習し、看護実践に必要なキア(cure)とケア(care)を統合できる能力基盤を育成する。
	病態治療学Ⅱ (外科系疾患)	外科系疾患に対する看護を展開するために必要な、疫学、病態生理、臨床症状、検査法、診断、外科的治療の方法、適応、合併症、予後について学習する。近年の診断や治療法は進歩をつづき、新しい機器や手術術式が開発されており、これらの最新の知識も修得する。

科目区分		授業科目名	授業の内容
専門基礎分野	人体の構造と機能 疾病の成り立ちと回復の促進	症候学Ⅰ	看護過程では、多様な症状を訴える患者から情報（態度、表情、行動、反応など）を注意深く収集し、その情報の解釈を基に現在の健康状態を適切に判断し、その後の病態の推移を予想する臨床推論が必要となる。このような患者への最適な看護を提供するために必要な思考様式を学ぶ。特に、バイタルサインの適切な把握と解釈、対応方法に焦点を当てる。
		症候学Ⅱ	看護過程では、多様な症状を訴える患者から情報（態度、表情、行動、反応など）を注意深く収集し、その情報の解釈を基に現在の健康状態を適切に判断し、その後の病態の推移を予想する臨床推論が必要となる。症候学Ⅰで学んだバイタルサインに関する基礎知識をふまえ、代表的な疾患患者の症例を利用して、これらの患者への最適な看護を提供するために必要な思考様式を学ぶ。
		臨床薬理学	薬物治療における医師・薬剤師などとのチームワークのなかで看護職としての役割を果たすために習得すべき薬物療法の知識と日進月歩である薬物の生理学的効果ならびに作用機序について学習する。
		微生物学	感染症は人々の健康を蝕み、時に重い後遺症を残したり生命を脅かす。人類の健康維持において感染症対策は非常に重要で、其の核の一つが微生物学であることは否定できない。本講座では微生物の性状と宿主への感染機構、感染の成立、惹起される感染症、感染に対する宿主側の防御機構などを解説する。また、感染症の診療（診断や治療）、施設内の感染制御に必要な知識や技能の基礎・概要についても概説する。
	健康支援と社会保険制度	人間関係論	看護学は人間関係を基礎とする学問である。この科目では「自己と他者」の理解をとおして人間の理解を深め、対人関係について考察し、よりよい人間関係を構築する基礎的知識・技術を学習する。特にグループダイナミクス（集団力学）の知見をふまえ、日常的な人間関係の内に潜む社会的影響や法則性について検討する。またグループワークをとおして対人関係の諸問題を体験的に学習する。それにより自己理解を促進し、自分にとってのよりよいコミュニケーションとはどのようなものであるかについて気づきを深める。
		生涯発達論	人間の生涯を通しての発達心理学の理論を学習する。人が受胎から死に至るまでの恒常性と変化を研究する心理学を「生涯発達心理学」といい、中でも、人間の発達の基盤ともえる乳幼児期の発達においては、事例を紹介しながら、その時期の重要性を学習する。また、児童期や思春期においては、最近の子どもたちの抱える課題について多くの事例から、その対応について考察する。さらに、青年期後期の発達においては、学生自身の発達を振り返り、やり残している課題はないかを考察する。
		家族社会学 (含ジェンダー論)	「晩(非)婚化」、「少子化」、「高齢化」、「格差化」という言葉で表される今日の「家族」の姿を、社会科学（社会学、人類学）の視点を通して理解していくための入門コースとしての位置づけとなる。現代社会における「家族」を、日本の現代史の背景の中で出現してきた社会のひとつの「形」であると捉え、それを踏まえて、今日のジェンダー、育児・介護・社会福祉、貧困等に関わる諸問題に対して、家族や社会がどのように向き合い、対応しているのか、そしてどのようなオルタナティブな対応方法があるのかを、テキストの熟読、身近な具体例、海外の事例を通して考察する。
		医療英語	将来の多様な国際看護の場で必要とされる英語力の育成を主眼とする。会話力、読解力、表現力、判断力を育み、国内外の様々な看護・医療分野で英語を使って仕事を遂行できるようにする。
		公衆衛生学	社会の組織的および個人的な努力を通じて疾病を予防し、健康を維持しつつ、寿命を全うするための具体的な健康増進を図るための学問を学習する。また、保健統計、人口動態・動態統計、生活習慣病・感染症の予防、保健行政、社会保険、保健・医療・福祉制度、公衆衛生関係法規などについて学習する。
	専門基礎分野	健康支援と社会保険制度	公衆衛生学

科目区分	授業科目名	授業の内容
	保健統計学	社会現象、自然現象、健康現象に対する統計学的な捉え方及び考え方を学び、保健分野における統計学の正しい利用及び解釈を学習する。また、卒業研究及び看護実践への活用を目指し、調査データや実験データの統計処理を学び、データの要約及び分析の仕方を習得する。
	疫学	疫学とは「人間集団における健康状態とそれに関連する要因の分野を明らかにする学問」であり、公衆衛生学の一分野として発展してきた学問である。保健看護職に必要な疫学の基礎を学ぶ。
	保健福祉行政論Ⅰ	保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、社会保障制度、地或保健の体系、保健医療福祉計画と評価について学ぶ。さらに、健康生活を支えるための保健医療制度に関する法規を理解し、対象への援助や問題解決ができるよう保健医療の概念、法規の概念など関連法規について学ぶ。
	保健福祉行政論Ⅱ	保健・医療・介護・福祉施策の企画及び評価について、調査で明らかにされた生活環境が人々に及ぼす健康上の影響等、健康に関わる社会問題を解決する政策課程に活かす方法を行政保健師としての協働等と政策形成過程について具体的に学習する。
	産業保健学	産業保健の目的は、あらゆる職業に従事する人々が身体的、精神的および社会的にも満たされた状態を維持または増進することであり、さらに作業および作業環境等に起因する疾病を予防し、作業者の特性に合わせて仕事を適合させ労働能力の維持と増進を図ることである。産業看護学では、これらの目的を達成するために必要な知識を学習する。
	保健行動論	個人の健康課題に関連した行動や心理的側面について行動科学を基盤として理解を深め、保健行動、病気適応過程などの一般的行動パターンおよび行動変容に関する理論を学習する。あわせて健康の捉え方と健康観、保健行動の多様性および行動変容に向けた援助基盤について理解する。

【専門教育科目】

科目区分	授業科目名	授業の内容
専門分野	基礎看護学	看護学概論 看護とは何か、看護の専門性および自立性とは何か、看護学の概要について学ぶ。また看護職への期待と課題について考察し、自身の看護観やキャリアデザインを描くことを試みる。内容は、看護の本質と機能、看護の歴史の変遷、看護の科学性・芸術性、看護の対象と方法論、看護活動の場と看護提供システム、看護の質の向上と看護専門制度、看護における倫理、これからの看護（看護職）について学ぶ。
		セルフケア論 セルフケアの概念について学び、健康的な生活リズムを整えるためのセルフケア能力について自己評価し、自身のセルフケア能力を高めていく方法を実践的に学ぶ。
		セルフケア援助技術 人間の基本的欲求の充足を基盤とした日常生活行動への援助を目的に、科学的根拠に基づいた知識・技能を習得する。具体的には、対象者の安全、安楽、自立を考慮した日常生活への援助、その人らしく生活を送るための援助の必要性を踏まえて、生活環境の調整、活動と休息への援助、排泄の援助、清潔の援助、衣生活の援助、食生活の援助などを習得する。
		療養生活援助技術 何らかの健康問題をもつ人の治療・回復過程を支える看護師の役割を理解し、科学的根拠と倫理的視点を踏まえて、対象の安全・安楽に基づく基本的な援助技術のあり方について学習する。
		看護実践論Ⅰ 看護実践とは何かを問い、科学的、個別的な看護を実践するために必要な情報をアセスメントし、対象者に必要な看護を提供するための思考過程について、講義・演習（協働学習）形式で学習する。また、対象者の意志を尊重し、対象者と共に療養生活の在り方を考える患者参画型の看護を実践する意義について学ぶ。
		看護実践論Ⅱ 看護実践の基礎である観察技術やコミュニケーション技法を用いて、対象の健康状態を把握し、アセスメント結果から、看護美を践するプロセスを、模擬患者（simulationpatient:SP）に対するロールプレイ、フィジカルアセスメントシミュレーターを通して学修する。基礎看護学の既習学習を統合し、基礎的看護実践能力をOSCEで自己評価・他者評価する。
		フィジカルアセスメント 看護実践の基礎である観察技術や測定技術、コミュニケーション技法を用いて対象の健康状態を把握し、アセスメント結果から正常及び正常からの逸脱を判断できる知識、技術、診断結果の看護への活用方法について学ぶ。臨床経験に基づく指導により、フィジカルアセスメントの理論と実践からフィジカルアセスメントへの理解を深める。
	地域・在宅看護学	地域・在宅看護学概論 地域・在宅看護の歴史や在宅看護が必要とされる社会的な背景を踏まえ、基本的な考え方や健康上の課題を抱えて生活する人々の特徴を知り、地域・在宅看護の役割と課題を学習する。
		沖縄の文化と看護 沖縄の歴史に由来する伝統的な芸術文化（言語 芸能 伝統工芸 など）の理論を学びながら、学内外での見学と演習を行い、看護への適用を考察する基礎的な能力を養う。
		地域包括ケア論 我が国の少子高齢社会において重度な障害の有無にかかわらず、住み慣れた地域で療養生活が可能となるように多様な種別（妊娠期から乳幼児期、児童期、思春期、成人期、高齢期、三障害）と場（医療、看護、介護、行政）における地域包括ケアの理論やモデルと具体的な事例から実際を学習する。また、地域包括ケアシステムの観点から多様な場における看護の機能と役割について学習する。
地域・在宅看護方法論 在宅でヘルスケアとサービスを必要とする対象者とその家族に対し、在宅ケアにおける看護過程、基礎技術、および症状や疾患に対する援助技術について学習する。また、健康障害を持つ人々やその家族に対し、保健・医療・福祉システムがどのように連携し援助しているのかを学び、その活用方法、サポートシステム、ケアマネージメントなど在宅ケアシステムについて学ぶ。		

科目区分	授業科目名	授業の内容	
専門分野	地域・在宅看護学	島嶼・過疎地看護論 島嶼・過疎地看護論：島嶼（離島）および過疎地或の弱みを強みに変換して捉え、島嶼・過疎地の住民が、生涯にわたり住み慣れた地域社会で安心して生活できるよう、保健医療福祉を統合した保健活動を展開する地或づくりや地或ケアシステム、看護職の役割について学習する。北部地区離島または過疎地の地区診断から生活環境の特徴を把握し、さらに北信地区で働く看護専門職の実践から、島嶼・過疎地の人々の健康問題の解決に向けた看護職の役割について理解する。	
	成人看護学	成人看護学概論	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解するとともに、成人期の対象を取り巻く社会環境、文化的背景、家族形態や機能、保健医療システムなどから、成人期の患者と家族に起こりやすい健康上の問題を包括的に理解する。さらに、発達課題や生活経験の蓄積という視点から健康上の問題に対する成人特有の反応を理解し、成人期にある人と家族に対する看護とその方法について学ぶ。実務経験のある教員が担当し、理論と実践を関連付けて理解を深める。
		がん看護論	がんサバイバーシップの概念を基に、AYA（思春期・若年成人）世代をはじめとする成人期の対象と家族の体験を広い視野から理解するとともに、がん医療の変遷や最新のがん治療、療養過程における心のケアや症状マネジメント、就労支援、日常生活援助、専門職種連携等、看護のあり方について学修する。実務経験のある教員が担当し、理論と実践を関連付けて理解を深める。
		成人看護方法論Ⅰ	急激に健康状態が変化する急性状況下における成人期の対象と家族への看護実践（救急看護、周手術期看護、クリティカルケア）に必要な専門的知識・技術・態度について学修する。また、病院前（プレホスピタル）、救急室、手術室、集中治療室など様々な場の特殊性を理解し、急性期医療に関わる医療チームメンバーとそれぞれの役割と連携について学ぶ。
		成人看護方法論Ⅱ	慢性的な経過をたどり、生涯にわたり生活のコントロールを必要とする成人期の対象と家族への看護を学修する。慢性疾患の特徴や、病気の認知と受容、セルフケア能力を高める援助、家族へのサポートについて理解し、様々な機能障害の特徴を踏まえ、対象と家族にとって最適な健康状態になるような看護実践に必要な理論、方法を習得する。
	高齢者看護学	高齢者看護学概論	高齢期にある人を身体的・心理的・社会的側面から捉え、生涯発達することを理解し、高齢者看護の特性を学ぶ。内容は、その人らしく尊厳のある生活の保障、高齢期にある人の安全で尊厳ある生活維持への支援、老化がもたらす心身の影響と適応への支援、高齢者の生活にかかわる法律と社会資源、高齢者看護における倫理的課題、高齢者を介護する家族への支援などについて学習する。
		老年学	急速に進む高齢化社会において、高齢者のおかれている現状、問題点を理解すること。さらに、老化のメカニズムを理解し、高齢者の疾病の特徴を学び、どのように対応していくかを修得する。
		高齢者看護方法論	加齢による生活の変化及び特徴的に見られる健康問題を持つ老年期にある人に対して、生活の質の維持・向上を目指した看護を学ぶ。地域の高齢者への支援体制と看護の役割、治療を受けるリハビリテーション過程にある高齢者への援助、生活機能障害のある高齢者の生活適応への支援、家族への支援について教授する。加齢に伴う生理的・心理的・社会的変化の把握の査定、高齢者の健康障害、健康生活上の課題の把握と支援、高齢者の事故防止のための行動と予防支援、安静に伴って起こりやすい合併症予防等を教授する。
	小児看護学	小児看護学概論	小児看護の対象である子どもの理解を促すために、子ども観の変遷や子どもの人権と看護、子どもの医療と倫理などを学ぶ。また、子どもの成長発達について、発達特性、成長発達に影響する因子、成長発達の評価等を理解し、子どもと家族に対する成長発達に応じた支援及び健康増進のための支援について学習する。
		こどもの健康科学	小児の病態、診断、治療について学ぶ。看護を展開するために必要な症候と疾患、病態、診断、治療の概略を理解する。

科目区分	授業科目名	授業の内容
専門分野	小児看護学	小児看護方法論 1. 子どもの健康障害を理解し、病気や入院が子どもに与える影響を理解する。2. 小児に特徴的な疾患の病態を理解し、必要な看護について考える。3. 健康障害でさまざまな状況にある子どもと家族への看護アセスメントと、援助の方法および小児看護に必要な技術を習得する。
	母性看護学	母性看護学概論 母性とは、母性看護は何か等の母性看護学の基本概念と理論を学習する。母性看護の歴史の変遷、母子保健統計と動向、母子保健施策を理解し、わが国の母子保健上の課題を学習する。女性のライフサイクルの特徴や健康問題と看護について学習する。
		女性の健康科学 看護を展開するために必要な症候と疾患、病態、診断、治療の概略について学習する。具体的には、女性生殖器疾患や母性疾患において、診療で用いる検査法の種類と原理、疾患の病態、診断、治療を理解し、看護に必要な医学の基礎知識を学習する。
		母性看護方法論 妊婦・産婦・褥婦・新生児の身体的・心理的・社会的特徴および起こりやすい健康問題を理解したうえで、対象者が正常に経過するための看護について理解できるように構成した。さらに、母性看護学実習における受け持ち実習をする際に必要となる知識と技術を習得できるような学習内容で構成している。褥婦と新生児の紙上事例を用いてウェルネスの視点による看護過程の思考方法を学び、母性看護の対象へのケアに必要な看護技術を習得できるような課題を設定している。
	精神看護学	精神看護学概論 精神看護概論は、精神科領域における精神保健医療福祉に関する法律および制度の歴史の変遷を体系的に学習し、精神疾患を抱えながら生活している人の人権や権利擁護について理解するとともに、精神科看護の機能と役割、また実践の基本となる理論モデルについて学習する。過去から現在までの精神障害者の処遇や政策・制度の概要および我々の中にある偏見および差別の問題を学生自身が探求する契機とするために、精神の病をもつ当事者の皆さんにも授業へ参加して頂き相互交流によるディスカッションを多用する。
		こころの健康科学 精神医学は、人間の心という奥深く、複雑なものを対象とした学問である。この授業科目では、精神疾患および精神健康問題を抱えた対象者の看護を展開するため必要な疾患、病態、診断、治療の概略について学ぶ。内容としては、統合失調症、感情障害、パーソナリティ障害、物質依存症、思春期精神疾患、器質性精神疾患などの治療と精神などの治療と精神医療の現状について学習する。
		精神看護方法論 授業概要：精神看護の基盤となる人間理解を目的に、心理行動上の諸問題を人格の成り立ちや家族や集団などの人間関係から捉える考え方を学ぶ。また、精神健康障害や治療的対人関係など、精神看護実践に必要な基礎知識、精神医療における治療的環境、地域精神保健活動について学習する。
	看護の統合と実践	看護倫理 看護専門職として必要な看護倫理の原則や看護者の倫理綱領を学修し、看護倫理の課題などについての基本的な知識と理解を深める。それを基に現実的な看護問題に包含される倫理的課題について考察する機会を設け、倫理的課題の解決プロセスを理解し、その解決のための基礎的能力の習得し、倫理的感受性を高める。
		キャリアデザインⅠ 自己との対話・他者との対話・地域との対話を通して自身のキャリア形成を深く考えることにより、キャリア形成の基盤をつくる。さらに、地域や国際的な視点を持ち、社会の課題に取り組み探求し続けるための生涯学習力を身につける。
		キャリアデザインⅡ グループワークや地域との関わり、国際的視点から多様な価値観を尊重し、自らの考えをわかりやすく表現する力を養う。講義や演習、フィールドワークなどを通して豊かな教養、深い専門性を養い、自己のキャリアを追求する。

科目区分	授業科目名	授業の内容
専門分野 看護の統合と実践	キャリアデザインⅢ	自由な発想で課題を発見し、解決する方法や倫理性を学び、人々の健康と福祉に寄与する力を養う。専門性を学ぶ中で自己のキャリア形成を明確にし、継続的に自律して学修する力を養う。
	キャリアデザインⅣ	卒業後の自らのキャリアデザインを確立し、豊かな教養、深い専門性、高い倫理性を備えた社会人としての自覚と責任感を養う。また、自由な発想で課題を発見し、批判的・論理的に思考し、解決する力を身につけ、人々の健康と福祉に寄与する力を養う。
	緩和ケア論	緩和ケアの概念や終末期にある人とその家族の特徴を踏まえ、エンド・オブ・ライフを生きる人々の多様な死生観や価値観について理解を深める。さらに、全人的苦痛の緩和や緩和ケアにおけるチームアプローチについて学修し、診断早期から人生の最期までその人らしさを支える看護のあり方について学修する。
	感染看護論	感染成立の要因や感染症が発症するまでの過程をふまえて、感染症患者および易感染患者の看護と家族の支援について理解する。院内感染対策と多職種連携、医療従事者の職業感染予防について学修し、根拠に基づいた感染防止対策について考え、倫理的な思考を学修し事例を通して理解を深める。
	看護研究方法	看護研究を実践するための基盤となる科目である。看護における研究の必要性を理解し、研究課題から研究テーマの絞り込み、研究デザインの選択、研究倫理、研究計画の立案と論文作成、発表方法等、研究の一連のプロセス学ぶ。また、看護学に関連する研究論文を検索し、それらを批判的に読み、活用することができる基礎的能力を養う。
	卒業研究	看護研究方法で学んだ基礎知識を基に、関心のある課題について研究を計画し、論文としてまとめるまでの過程を通して看護職に必要な研究能力を養う。具体的には、課題の選択と文献検討、研究デザインの決定、研究計画書の作成、データの収集と分析、研究結果のまとめ、論文の作成・発表を行う。
	看護実践と理論	1年次における看護学概論を踏まえ、最終学年において改めて看護理論とは何か、看護理論が生まれた歴史的背景や構成概念、ならびに看護理論家の理論構成の特徴について確認し学習する。また看護理論の基礎的理解を通して、理論と看護 実践との関わりに対する理解を深める。
	看護マネジメント論	看護マネジメントの目的を理解し、人々の健康向上のために経営資源を系統的に適用するプロセスについて理解する。看護マネジメントに関する法的基盤、専門職集団としての役割と機能、組織構造と運営、組織行動と原則、リーダーシップ、医療・看護事故の予防などの課題について学習する。また看護師自身の自己マネジメントについても考察する。
	家族看護学	少子・高齢化が進む中で家族の形態、機能が大きく変化してきている。人間生活の基礎としての家族および家族関係に関する理解を深めることが、臨床看護、在宅看護をすすめるうえで重要になっている。さまざまな状況にある家族と家族の人々に、看護者としてどのような役割が期待されているのか、事例をもとに考える。特に当事者の視点に立った家族看護の理解を深めていく。そのうえで健康的な生活を支援するための家族看護の役割について学ぶ。
	グローバルナースングⅠ	国際看護・異文化看護の基本的な考え方を学ぶとともに、国際協力活動の事例をととして、人々の生活に深く根ざしている文化背景を理解して尊重する健康支援や看護のありかたについて検討する。
グローバルナースングⅡ	開発途上国・地域の人々や NGO スタッフとの交流を通して、社会や個人の多様性を理解するとともに、それをふまえた国際看護保健に関する協力活動の実際を学び考察する。	

科目区分	授業科目名	授業の内容	
専門分野	看護の統合と実践	グローバルナースングⅢ	日本の在留外国人（以下、在日外国人）は、社会状況の変化に左右されながらも増加することが予想されている。そのため医療や健康支援が必要な外国人に対して、言語・制度・文化（こころ）の壁を越えた看護サポートを行うことができる看護職者としての入門編を学ぶ。特に文化・言語を尊重したサポートのあり方について演習を行いながら理解を深める。
		災害看護学Ⅰ	近年多発する災害について、その種類や特徴、災害が社会や人々に与える健康問題や課題を理解し、具体的な援助方法を学ぶ。さらに、フィールドワークを通して、地域特性を知り、災害発生時の具体的な災害への備えについて考察する。
		災害看護学Ⅱ	災害急性期の現場活動や救護所設営・運営に必要なとされる基礎的な知識・技術・態度、災害中長期に起こりやすい人々の生活・健康に関する問題と対応について学修する。また、災害サイクル別における保健活動の役割、災害時における感染症の発生と対策、更に災害に関する倫理と法律についても学修する。
		公衆衛生看護学概論Ⅰ	地域で生活する人々の健康問題解決や健康課題の組織的な解決に関する公衆衛生看護の基本的な考え方について学習する。また、公衆衛生看護の歴史、公衆衛生看護活動の理念・目的、基本概念とその活用、活動領域と対象、活動方法、社会環境の変化と健康課題について学ぶ。
		公衆衛生看護学概論Ⅱ	地域で生活する人々の健康問題解決や健康課題の組織的な解決に関する公衆衛生看護の基本的な考え方について学習する。内容は、公衆衛生看護活動の理念・目的、基本概念とその活用、活動領域と対象、活動方法、社会環境の変化と健康課題について法的根拠と住民支援への看護技術、知識を踏まえて具体的に学ぶ。
臨地実習	ケアリング文化実習Ⅰ	沖縄の歴史や文化、地域の絆や共同体の文化に触れ、地域で育まれるケアリング文化を学ぶことを目的とする。	
	ケアリング文化実習Ⅱ	沖縄の歴史や文化を継承しながら、長寿を全うしている地域の高齢者や障がい者などを対象とし、彼らの人生や生活、地域の絆や共同体の文化に触れ、地域で暮らす人々の生活とケアリング文化を学ぶことを目的とする。	
	ケアリング文化実習Ⅲ	地域で生活する一般住民や高齢者や障がい者などと住み慣れた地域での活動で触れ合い、さらに、家庭訪問と健康診査に参加することで、彼らの人生や生活、地域の絆やケアリング文化を学ぶ。また、働く人々(家族を含む)の労働や生活背景と健康観および健康管理の実際、健康の保持・増進のための法や制度、システム、看護職の役割等について学ぶことができる。	
	ケアリング文化実習Ⅳ	地域で生活する一般住民や高齢者や障がい者などと住み慣れた地域での自主活動で触れ合い、さらに、家庭訪問と健康支援活動に参加することで、彼らの人生や生活、地域の絆やケアリング文化を学ぶとともに、看護に活かす地区の特徴（地区診断）を体験し、地域の健康の維持、向上に向けた法や制度、システム、行政や看護職の役割等について学ぶ。	
	ケアリング文化実習Ⅴ	地域で生活する一般住民や高齢者や障がい者などと住み慣れた地域での自主活動で触れ合い、さらに、家庭訪問と健康支援活動に参加することで、彼らの人生や生活、地域の絆やケアリング文化を学ぶとともに、看護に活かす地区の特徴（地区診断）を体験し、地域の健康の維持、向上に向けた法や制度、システム、行政や看護職の役割等について学ぶ。さらに、1年次、3年次、4年次を統括するマネージメントを体験する。	
	基礎看護実習	看護の実践現場において、看護を必要としている人々の様子や、医療従事者の働きを観察し、どのような支援が行なわれているのか具体的な事実を通して理解する。また、日常生活援助の範囲で対象の健康状態に応じた看護を実践する。	
	地域・在宅看護実習	在宅で長期にわたりヘルスケアサービスを必要とする療養者とその家族へのケアを体験し、在宅ケアの実践に必要な知識、技術、態度を習得する。	



科目区分	授業科目名	授業の内容	
臨床実習	成人看護実習Ⅰ	救急・救命、急性状況において、看護ケアを必要とする成人期にある患者および家族を対象に、身体的・心理的・社会的状況をアセスメントし、生命の危機的状況下に最適な看護技術を実践するための能力および態度を養う。また、関連するチーム連携重要な実践を学ぶ場とする。	
	成人看護実習Ⅱ	慢性的な経過をたどる健康障害により、生涯にわたり生活のコントロールを必要とする成人期の患者・家族の全人的なアセスメントおよびセルフケア能力を高める支援、地域・多職種連携を実践するのに必要な能力および態度を養う。	
	高齢者看護実習	高齢者の身体的・精神的・社会的側面を捉え、生涯発達することを理解し、加齢による生活の変化および特徴的に見られる健康問題を持つ高齢者に対して、生活の質の維持・向上を目指した看護実践能力を養う。	
	小児看護実習	成長発達が著しい時期にある子どもと家族を総合的に理解し、健康の保持・増進・回復に向けた看護実践能力を養う。各成長発達段階にある子どもの特徴および病気の理解を踏まえ、ヘルスアセスメント、看護計画の立案、実施、評価のプロセス屋子どもの療養環境と医療・看護の役割、病気や入院が子どもに与える影響とその看護、子どもと家族のための医療サービスと関連職種との連携、健康レベル別援助技術を習得する。保育所実習では、保育活動への参加を通して子どもの成長発達の特徴を理解し、健康増進のための生活の援助方法の実際を学ぶ。	
	母性看護実習	子どもを産み育てようとする女性および家族のニーズに対応した看護の場とサービスのあり方に対する認識を深め、対象への援助技術を習得する。具体的には妊婦健康診査の場に立ち会い、産婦人科病棟で褥婦・新生児を受け持って看護過程を展開し、この時期にある対象の理解と看護について考える。また助産所実習を通じ、施設とは異なった看護の場を知り、その活動と地域における役割を学ぶ。	
	精神看護実習	精神的健康問題をもつ人とその家族の特性を理解し、その健康と生活の回復・維持・向上を図るための看護援助に必要な知識・技術および「共に生きる専門職」としての態度を習得する。各学生は担当患者1名を受け持つが、仲間と協力して仲間の患者全員（5～6名）を学生全員で協力して情報を共有し、ケアも協力して行う。このため、実習期間中のカンファレンスを丁寧に行い、学生グループ全員が担当している患者全員の事例の理解を深め、ケアを検討していくことに積極的に参画することが基盤となる臨地実習である。	
	総合実習	1年次から4年次までに修得した看護の実践能力の評価を踏まえ、自己の課題を明らかにし、保健・医療・福祉の包括的な観点から看護の総合的な実践能力を高めることを目的とする。さらに、学生自らが実習を企画し、実施評価し、将来の自らの看護の発展と方向性を探究する。	
保健師教育分野	公衆衛生看護学	公衆衛生看護活動論	生涯にわたる各発達段階、健康レベルに応じた個人・家族・集団の生活と健康状態、住民が主体的に健康問題を解決できるよう、地域特性と法的根拠を踏まえた保健福祉活動について学習する。公衆衛生看護活動では、母子保健福祉活動、成人保健福祉活動、高齢者保健福祉活動、精神保健福祉活動、難病保健福祉活動、感染症保健福祉活動、児童虐待予防福祉活動、災害保健活動等における地域の人々や医療・福祉等他職種との協働・マネジメントについて学習する。
		公衆衛生看護方法論Ⅰ	地域の健康問題の把握方法である地域診断の基礎的知識と技術を理解し、地域診断に基づく公衆衛生看護活動計画と評価、住民ニーズの施策化等について基礎的な能力を養う。合わせて、地域住民が自ら健康問題を意識し、主体的に健康の保持増進を図り、健康問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を駆使して健康支援ができる基礎的な能力を養う。内容は、地域特性および地域集団の特徴把握と地域診断、健康教育の理論と方法、実践である。
		公衆衛生看護方法論Ⅱ	地域住民が自ら健康問題を意識し、主体的に健康の保持増進を図り、健康問題を解決できるよう、地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術を駆使して健康支援ができる基礎的な能力を養う。内容は保健指導、家庭訪問、健康相談、健康診査、地区組織の育成、地域ケアシステムづくり、社会資源の開発について学ぶ。

科目区分	授業科目名	授業の内容
臨地実習	公衆衛生看護管理論	保健行政領域における公衆衛生看護管理の概念・特徴、健康危機管理の意義と管理体制や活動について学習する。講義では、公衆衛生看護活動過程と看護管理（事例管理・地区管理・事業管理・組織運営管理・予算管理・人材育成・人事管理・情報管理）、さらに、具体的に地域ケアシステムづくりや保健管理の役割、災害保健の中長期活動について学ぶ。
	公衆衛生看護実習Ⅰ	保健所における管轄地域の特性及び公衆衛生活動の実際について理解し、地域支援、事業運営、組織運営、予算管理、人材育成、情報管理、健康危機管理について学ぶ。
	公衆衛生看護実習Ⅱ	地域で生活する住民の健康権を保障するために、住民とのパートナーシップの下で効果的に協働する公衆衛生看護活動について学ぶ。また、地域のケアシステムを活用して健康課題を解決する方法を習得する。